



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

國圖

56-4078

源氏物語

種



御とらしらんとらん
もる二ちも

らんとらんおの一家も
只角りよの二角も只角りよ
角りよの二角も只角りよ

らす

らんよ かんらんらん
さの一家も ち
えもきくらん
とれえまへけろゆくも

うる
蘭乃里 うらんの
あそびをとくと書
事牛子とけふう
整たむりよるゆく
ぬまきくもんう
うへんせんじゆ
乳也乳也 うへんせんじゆ
乳也乳也 うへんせんじゆ

ちまへとおき奉とひまへ

三二

亂舞 まみくもや と
物 まもむけとふまも難
乃 まわまと乱舞の難と
つるよ物 まくと泡を付く
もくもかと物 まく
物 まく本の物 まく
白物 まく物 まく
やのひう 亂舞のもの
よ物 まく空を出へて
空 まくやうゆく

ま

空 お雲移り名一ほく懐歌
とまく用へし空と
いと牧乃虫の声うり巻
桃纏 まくじまくニタシ
敷 まくぢうれも空巻
絶 まくぢうれも空巻
絶 まくぢうれも空巻
毛利或は一度よ一句の
物 まく三のうち内よまく
とを平連歌よ絶の空一乃
かねまく終空二乃内ふ巻様
歌の内よせくらひをり
巻様 まく空乃
ト まく連よ一句の歌ハ那
二もともちわらひゆる巻題
ハ雲も二ねむす二終空も二
巻様 まく二歌あらア空

五三

散おもへ因ゆ」とあくまよ
うかへゆるをすがとす
ち取るやうめやと紀物よ
連紳とりへ新式のよ
まく一ねむ一ねむ一
うをも角よ幕うちつよを
きじひへ威い懲舞
の内一機械も
あもしりとひづくとも
また連紳新式のよ
連紳よひ舞えり
のよひ舞えりご繡の空
よみの風乃くふ今一わ挙
よあくふもも三度持よ
あくふ

ねりしりうれむひ都のまよ
あすゆのと連ようよ
わらわら連よへせぬにまわ
とももい連のくわ
うれきわひかのまよ
むまよ虫このじくよすどし
は股の虫よのま乃ま各こ
ゆとめくとこ虫のまよけぬ
しよへちとあらわ

家鳥歎乃ち
はよ渺々

うるは一郎清よへらとく
徳あらと教へりゆく
わとうくみ二ものうち
あはくふへ連よわるれ
御よへゆをまかすも

卷三

ゆうとめむへおれとゆく
村乃まよ二弓をあめと
かかと拂ふと村乃三
弓をと發すと二弓の
内に直すへ氣ふ面をぬく拂
よせぬきと
村乃まよとつひも村乃二弓
四弓は寧まぬく拂
村乃まよとつひも村乃二弓

村乃字より一句也
えりはるかの思ふ

し
り
かよひ
まよひ
村乃字
の文字
弟の村
ちの村
の村
株の樹
の村
郷のう
やく
り
遠
行
内

あよみのくまよ達の事す乃
平ことまよ前をりへも極め
者とせのとあがま
若達へ入れしまよ達若達志
くやりへもわらじうの酒を
達乃達もうじうけを
そりう達をやうの名れを達
二あよもうじうわらじう今
一まへとこまここのか
今席あくび多よひくも
三ま内いはまもわらじう
をしろ間とりふるが
ひかよまへ

物只見紅梅一本一枝
紅葉一枝獨紅葉あくべ

新武一座火盆乃前よりの
やくまくはひりかとくの
理をくらう人あすきゆ
新武の物とよ物とてあくべ
一ねど煙とくあり色峰
もと雪の物とくと新武よ
うんそえの物とくと新武よ
そんや能物や物とく小物梅
げや物とく新武や物とく小物梅
煙草とく新武や物とく小物梅
うらまかうりよとくと新武よ
まの物とくと煙とく新武
新武の名とくとくとくと新武

村居本ヨニカニモハドリ乃
品重乃一村レシト鷺村居小鬼
教ガトモ居本トモアシテ次
里木植地より出と雖ト端下
也木垣瓦や紅葉と皆く
三句ミナウト
馬一頭一羽をノムアリ馬
角を數多と新式の一
度一句の極乃不よりありモと
約ト同様に誰より賣馬為
キト移すよ達く馬約二万
赤より一毛ノヘ不怪新
式を及するよ當ハ馬う約より
一座より一毛ノヘ不怪新
馬一頭一毛のかよハ乃馬
ひゆく馬も名あリ猶之
モ馬約乃ホヘノ馬馬
ひゆく馬と一毛ノヘボト
り又毛ノヘアリ誰より賣
ニトカクノアリ誰より賣
鷺馬も書馬傳牛馬る
康馬頭欽也馬而馬糞
もと發すよも防今一毛モ
て一座より寫乃ねトはま
馬齒も塊ク原牛欽馬糞
馬糞もよも齒を吹の名
乃馬蹄人のふ乃馬糞如鶴
馬寺又漢より角ノモニ
内也日下木の許ね基名の馬
扇をわらる馬蒜もとと馬
よセ匂ちゆうト約莫ニ三句

三ノ毛ふひぬと生穂乃

馬よりうきやれよあくま

おまお乃也されもと連う

ひぬり約ひ乃馬おどりす

かくもそく又ニ味猿乃

約使約山約うる猿乃人

ぬり約あまくへ約よの面と

えひ馬ノハニをも今まし

くのあと去ぬとこまん

あめ小難主とあくしど

つともあまくもわらひよ

写乃門と次又じまや乃

張路としまやの長路長と

馬約よそぐるれむしとま

も約よそぐるきは錢かと

けし生穂よ二弓たる組

せん引と發よし射ひる

駒小と生穂も不當付

もくま

ゆきと駒よしとぬとり

経あま毛林乃一室われ

じもや准一くる約よ面

とぬの流下が狹葉ハ源

そ匂き野々

ゆき 生穂よ二弓馬橋

ねときぬやわ

鷲鳥又鷲よおあうる生穂

とぬくちわ馬於乃源又禁

中よわれも居前よあれ

生熟よりひ馬鈴よりと

燐

も陽じぬ陽 生熟よりと

も陽じぬ陽 生熟よりと

きくから

馬みじぬるも傳乃事

人傳し生熟

ニアル駒よれど可憐の

かづりともわらぐへふあ

きくひやうも十をうへわ

もとうそをよまくせく

おわううく重む體もよ

るよりひくも整よりひく

もふ含る駒一産り宮乃

ミヘノ駒をく内馬鹿

絆事乃名の馬箇乃靴

乃まよ三弓去て室乃外

ようくもあらえまある

もくね宣しゆくと人共

淨海のゆき

しりきのゆき

ふれやうほをゆきはだ

もかまほひがとゆきはだ

うと世乃後よりもや

乃すかゆるもく産の家

頭もあくく貴人又松葉の

白よきう乃

よくく

室乃へ乃よ二種あり一

もくゆとくとくとくとく

教ゆ色引りゆく

萍 雜もわ萍乃高橋種

居前から萍生八重

萍のとひりと離よ二方

もへ一萍生居不二包

音也の連懷に曰引合く三

と新歌乃又云じは養理會

はくさゆへよきより奥よ

腰補祇入委連懷 懷旧主常

坐之聲くはくうへるきみ

い反をふに一句ゆくと掛

三句ともけくあくくく

あくゆどりか事もあられ

音也の連懷を曰うもあら

乃むれを連排する別と

音也の連懷を曰うもあら

音也の連懷を曰うもあら

音也の連懷を曰うもあら

音也の連懷を曰うもあら

音也の連懷を曰うもあら

音也の連懷を曰うもあら

音也の連懷を曰うもあら

音也の連懷を曰うもあら

音也の連懷を曰うもあら

遠情よりまことにまことの音
よ懐旧とみゆきアヘトウトモ
無れんし連よみゆ乃物ハ誰よ
ハシルミヘ

じろ
家の戸 あらよあら次
家じちよれを廻ねまう
付くもくはしきす有漏
無漏と名めりとくまく
あ 次家乃ハ鷹ニ家
山ふき家乃すよれど鷹も
麵家も因あひ歎乃家爲
家あともくは家の少不
とあらぐとされてもく
も居ゐのうされてもや
三じわくとくも山ふくわ
ト一びくもくへ

乃家家ゑあとくみわく
いはきあくも家のみわ
ト一びくもくへ

れく

家乃くやくせあまゐゆ
ゑふよあくわくあくとも
家乃するれもれとく場へ
さめり家とくすとくと
乃あ称をひすとくとく
ああよもやくせとくす
縁へあよもくあれぬも
とくすともたまつくり

じての中よもやまの
とつうと中下初半はと
三段よもやうられも一段の
とよえと中下初半はのち
ゆくらきめくらふま
あらのうらきめくらふま
よくくらきめくらふま
うち

じくもと難と花と絛と
さきこ花木は乃
み乃名のうり極もよあ
とじくニ乃かよスある
歌

じくひあふわく物
うり連よ一句乃
ねされし歌のハ曉龍

うんと音よのく今言

胸乃寄 烏と絆 ほりね
お巡と鳥と宿物

よ付くもくうかと

し称乃寄 烏と絆 よ

ウラの神ようり

胸ようらの神ようり

くあうゆしののうさ

胸乃寄 烏と絆 うい

宵の月海のけよつて
魚々れぬけよじよつて
よあきし称乃寄

しはく わかこゑうり難よ
わく

しはく ぬしきひの山と二弓屋
ま

まくさくぬるさゆり

しらめ 一弓あゆのへよお
まわりとつまじら

わをぬら

しまゆよくふ乃泊ニ
匂きを對と對

よむくじきくあん
あすきもひ二匂きら

うくわくの都わら生と
うくわくの都わら生と

小ねとぬら

しのれ花雪と雪みり雪と
拂拂よあく

花よあくはぬり拂拂と雪
あひ花とあくと雪り拂

てあ花ともあく今す。

はなれ花 雪と雪みり雪と
えぬくさくとすすむ

ぬくさくとすすむ紫
あゆの花と雪と雪みり

も難くさくとすすむ

卷之三

三

鶴
かくすみ今一車より
那よひか小黄鶴金衣も
常き鶴表鶴或りあら
乃常乃鶴お乃内一万个
百千を量れどもかく
てわちとありといはれ
もるり不可用也然乃
侍およ多乃毛わく百子
もとあそもやうら
かうのあ
もとえんせんしよせん人
よおひを

那
二
序

うめの小川もより野辺山を
とあり新がよ月くねりし
月るく

うめ世 ほせとまきのよしき

わくまくわくまくまくまく
まよ二句去たり

うめの小川も野辺山をま
うめの小川もそれも野辺

よ二句去たり

うめの わくまく離乃まち
あよ ふくまく離乃まち

あよ 面と離乃とうま
日ひのあくまはあくまとけ
も離乃はめたわさり

山乃の風雅乃まちうとも
うよあをまくまく離乃

うふ えの葉と新がよ
新を離乃まくまく離乃
おけり色へ絶乃まくまく離乃
おの葉とまくまく離乃
いくまく離乃まくまく離乃
おわくまく離乃まくまく離乃
も離乃まくまく離乃
も離乃まくまく離乃
離乃まくまく離乃
そく離乃まくまく離乃
よれりまくまく離乃
あとわを離乃まくまく離乃

卷之三

角を焼く事の多いた
めよあれどもこの所全
て網をも焼通とる丸の文
字とのまゝの筆とて書く
お跡を焼てゆる事と
きよそのまへばよいか
すと網をも焼通とる
事の多ひ事とて書かれて
ゐるを角を焼く事

宮川の源は山野の水也
内川源池乃中嶺あ山
数よわくもひうりわれ云
とくらうく小萬川源も山數
をかよむりく源乃川源
ち山數

えの小虫よ肩根せきね乃丸川鷺
黒と今あらわるよよりと
ちの門源も山郭さんくみさう
えとひそむあり

東夷北
其事也
之於彼
野色原
之之多也
今之社
者也字
社也よ
向より車
事の如
もせん社
れど那
れも東夷
をか細
きにす事
あり野

うるあねの内あらわす
かき野とくらはれを野ち
くらあするの際のう
あくとあるのわらわよ
ひきねまゆせうきをま
ともりいふをゆきをゆき
るのあらふをゆきをゆき
くちあらあらかく離れま
とくとねまよにをき
うるかのうるかの
うのまうるかのねま
されとまもるてこの
うのまよがよはりわ
ひうのまよの浦や
りあまくの浦や
すくま鄰れぬる
ゆくゆく
うるかのうるかの
ま前よまゆ
よ浦やまよ山のま
もゆよまよ山のま
名前の浦やよ浦がよま
ゆよ浦やよ浦がよま
よ浦やよ浦がよま
もよ浦やよ浦がよま
よ浦やよ浦がよま
ひよ浦やよ浦がよま
とよ浦やよ浦がよま
ひよ浦やよ浦がよま
とよ浦やよ浦がよま

とおきよわとくめしと
とのまも人馬より絶ぜ
物よりよし防めりれと
とうともねあと後ろへあ
しきれも相とてのうとくの
うとくとくとくとくとくの
鷄トリ 駒カタマリ 動ねるわとく
駒トリ 新ハタハタ もと加く
あつも船の舟よへゆく足先
人を經さまと船をりゆ脚も
駒トリ やまのいの生歎よ
二弓もるわ

浮本ハタハタ 漢ハタハタ よあく汝水を
縛ミツメ よはとあくへ 誰
えふは本乃處ハタハタ とた
へりくらきりとくとく水急よ

煙スモ 人ヒト あく人ヒト 烟スモ 人ヒト

うとく新ハタハタ もと水ミズ あ
宣アキラ ものとよとくめうわ
かよおふよあくはれあも
のめうらわふよあくはれも
きくはよゆきよあくはれも
もれあれ式ハタハタ とおふじ
あくはれ式ハタハタ とよとく
乃ハタハタ とくとくわくとくわく
余ハタハタ のをれぬもあくは
かくはく
鷄トリ 駒カタマリ 新ハタハタ もと

事よりあくまかねてす
うの体ともうわからぬ
は道理を解るところよ
余のもとうもろくよし
うといひきもすひつも
もとうゆめんとあらむ
ひうりうりと体とく
も和くよあくゆくとく
あうとくえめりあれと
はもの体とくふやまと
おぬめうきとくを教と
されうづのとくわに
わくゆとりあづくとく
内麻因あとゆりもへれ
うえぬく合されしも
あふとくを教ゆ

印の筋あくまく本と
印の筋あくまく筋あくま
も一个四月の筋の筋源相
さわ種筋よ二をも筋の筋よ
もとくち

兔と一歳よへ月の筋の筋
とも免の毛乃毛も免は
お内筋よ今一歳よへ兔角
とくの筋免よへ角よもく
つかと免も角もとく
筋とあらく行とくとくも
免の筋よへうよく
どもかくあらうよかく
あとくとく角筋の筋けり
えがくとく三歳筋よ兔角ふとく

と西家とせの人らのもの
各別乃ももく方棄よひて
くわとりすよとひ左者と
くあらうぐれ西家別よ
わらあせ。乃人今今今次
傳又支子のゆえより
もれ金おもとゆうほだよ
まことわきくく免ニヤム
かよ中の年や月や日
印附うとの月よ今一月之
与干の年よ印放ふ本
れをゆうきり印放印月
乃印日ようねうり印
元も印月よ壁ゆ今よう
は本とくすら又中うり
やトもくの事と云既

きひ二乃印放本と干の
印よ回をほんわ印む
本乃ぬよ筋點と印免へ
免の字ノをけきて免の
體重ひぬとそともく
く次うる方免ある事
たるうのほ匂よあくも
計ときのひ又の「ふ」も
シうれ能家連と云ひて
一既小荷合とくくの事と
能くみみとへ

備

備の名は備と

右ト印氏は印わをくく

二十六

火を急に引かず
しと静紙よりあらま
二門一もあらまく

うわの生氣より逃る
えりうれしこよれと
或ち魚鱗迴鱗ゆき殺す
よきくえあらへ

種田

種田よけ難とゆる

田同じ

種とまよまよのまの波
よゆく取て是
うち離は二あり吾輩と
ゆめくわくもまよけ
離とまよけ

うわの離うまよけくわくを
あらひく精合とくれと
ケ敷取ゆるの用へん取
くわくあらひ取へん取
乃まよけよけとくらゆ
まよけよけとくらゆ
うわとまよけもまよけま
きくわとまよけのく離よ
一離よ二離よ三離よ
うう離へん離へん離へ
离も離も離も離へん離へ
うの離の離と下を離へ
うの離の離の離の離へ

まちとまやへまとへと月日
乃ひかと月日れあようう
と死乃えのううと人を
くもほのまうめううと
うしのうめれりううと
あれよ吉乃くねまうう
うううも用あ

うじわ香 神走枕たう
つらぬめ走枕たまこま
あくのく月あとふあり
あくうじわぬうくま月の
うじわくまつひくまくへ
ゑ乃ゑくまつひくまへう
す神走りうあくまくへ
殿まくあくまくへも肌ま

うじわ香 通鑑から帝
汝夏むあくまく監ち御の
入のふへゆ衣と拂
く小鏡買もとく昨乃西
とおもと拂
淳祐もくえもあてまく
さかよくら鏡買まんの
ひとくわんのひ膝とさ
くう筋きれそそのまくう
者あく淳祐一毛う
ぬくうじわとづりまく
うじわ者と袖走はうう
うじわひくねあわき
うじわ連う御のあと丸ち
有せりんうじわ高き意
乃絶しあう角の匂いのま

カヨウヒツムアタマアヤ
袖枕もりも肌よニ角るひ
シテタナシ御も肌たあれ
いと寝てああのとくへ
うひちもあらひあらけ
ふちり袖枕のとモヤモ
タヌ袖枕もかきかき
すこのまわよ一
ハ面をつぐみあらわ
うすね^ノ筋ス内物のま
すねよへまきとする
乃あるわ衣敷もり
埋火 宝庫^モとじひ
拂^ハわよ一

埋本^ハりともひは内し
上乃字^ハ拂^ハえもろり
拂^ハも拂^ハも内^ハうり
ひ面とぬ

うぬや 産前^ハ生^ハむをく
かうり居^ハ居^ハ二^ハ居^ハ
きを居^ハよ^ハ拂^ハむをく

ミ

うぬ寝 美^ハう

うぬ^ハめあらと

まよあり

わくの^ハをくとくとくとく

敷^ハりあらこ人^ハあり

うぬとくとくとくとく

みうちきくはをひのとゆ
ちりと度どりありあはり
すわぬと鶴とみるとよ
里りあひのんがそれも
鶴のとくらうとくらう
約とわくとあらう
能くやのあくね合とくらう
らくらう

お波とおすむしの類

うふてよとめおのま
二弓きこ面八弓の内より
ても二三ありともくと
あくす衣とう波の内
あくへ連よみ匂拂うる
三弓去きわひおと面八弓

内角よ二弓あるとぬしてよ
をとのくとくも二弓さ
あくら

御杖 み杖 三寸四月節日

よ杖 三寸四月節日
もト 三寸四月節日

つま

鶴川 えし鶴つゝす

人よけうれね鶴のす
鶴川 えし鶴つゝす
事くふの横川 あすに
わす

うし鶴 せんかこ孟蘭ち

うし鶴 せんかこ孟蘭ち

久次あらんの死を發
よ達句のとてうへ長し
うざく死室をねり
空氣の死室をまわる

馬

猪ウサギ只一聲二ひかよゑふ
乃ね猪名野人ウサニノヒト名乃ね
ひのこのまの角の乾支
乃ゑもくわらえくわらえ
と一々一連より一在
匂若然とえども同
乞れ生歎ウタハラハも不羈各
別乃相ウタハラハいのうちれ
立よしくーかす連え
屋さとゆとゆとどうかよ

ぬとねとくもつりねと
くもくやけきぬよゆ
ゆふりく一聲一句の物
と歎離鶴の時もわねと
とくのともまやけきぬと
らも称と文よ制と今す
よあく歎連歎よけりもゆ
絆を家とねあてとくと
あくの通されとく合の
鳴いぬと連歎よ一聲一
匂乃相とこり乃かよせよ
とゆうすと曲事すと答
人もゆうゆうけきとされと
愚かすとゆうゆう

居乃ま まきと重井雲

乃わら麻あわら

鶴居の類とむろは矣を
もゆる被つともゆるども
と同するれど二句もうち
入居と一毛もさりの附居
乃まとちもあれどゆも
不適もやのまわゆも
ゆも又居とへき付くも若
うす壁乃まゆるも若
鶴は鶴く鶴居居ある
くも二句に替ふよるくも
居士もとの居乃まゆるも
ものとけようくも次

井の字 紗井より

サセイノ井の

も井根井石井とくのひ
くニ巻井のあた井
わざのゆくめとの名ふよ
スニとてかくもくへつま
ねをもへ一易の井の
卦も写の肉をうわを
うわ井のまよの筋
さしと不適と連歎ア
づら井聞とえまよもと
このよづらめうもと
不適一いきへむ道理
えまよおへ候居もと
これもおまめが暮よと入
ありあまきと石あまきと

せうれりあらじゆはつるは
のひえまをあくとめわと
もかすくまもとあく
名よ面をきくい岩よセ
匂えまと聞えま家の懶名
ゆうひよめのてよ井やさ
とちく壇壙ひあすとおせ
りくらん音え室家の懶名
ほうひとや場を室の酒名
よあく次始め河内守新野
へ捨遠愚景の酒名をゆゑ
乃わり附火能よ大集く
ほりをあまくとねじ虫渦
てそれを至く家の假名屋
とよくぬくの室あつの石作
こま通理よ遠もく不平

名えひ書えらの時の酒哲吟
味しと云義らきくめれも
云細うくまへもめゐの而
よの坊とうけんくすと
里あるとけよそひく
もあき事あれ乃門よ仰まひ
帝の酒字あくん目をよ
角水のあめ小始くりき
一あを大井川とさうと
とゆくとれもせきとま
その大井川をせきとま
や磧もいづくとむあが
ねまくとも大井川とま
のせきとくとあるかよ
ねまのあえおもひがさす
ゆまもあももものづれ

もあめわねちよ鷦^{シラサギ}と三毛
を人ヒトも去ハシマリて事ハシマリされ
も定ハシマリかのの假名ハシマリひよ
アラヤク假名ハシマリよあめわ
とお井ハシマリのゆよへすま
ゆのくらみの水ミツと水ミツと
井ハシマリへんゆミツと水ミツと
うく既ハシマリ大井ハシマリ圓^{スミ}縁ミツを
きりと其ミツ數カウいもとれやら
連ハシマリは井ハシマリのまようくら
とつ税ハシマリと不^可用ハシマリ石磧
乃ハシマリわ^{ハシマリ}井ハシマリのふうくら
井ハシマリの門取ハシマリ

守宮^{ハシマリ}生熟^{ハシマリ}水鳥^{ハシマリ}加^{ハシマリ}

井ハシマリのりくよ經ハシマリと人ヒトの
壁ハシマリふもとわきをそれりと
血ハシマリともう一^{ハシマリ}もたわきと
けく防ハシマリ石ハシマリ井ハシマリのりの義
よあハシマリ次妹ハシマリをぢと^{ハシマリ}と^{ハシマリ}を^{ハシマリ}放
連ハシマリよきかよわと煙ハシマリへと離
よれ面ハシマリをさうぬらハシマリやせ宮
乃ハシマリあくいゑともも室ハシマリあ
の假名ハシマリはくひよあめわねの
よのめれと井ハシマリのきよく
あらぬと云ハシマリあらわ^{ハシマリ}く
もも櫻ハシマリと深取ハシマリと^{ハシマリ}也^{ハシマリ}也^{ハシマリ}
古ハシマリ人の空ハシマリもうちれをも文
字ハシマリニ^{ハシマリ}弓ハシマリ井ハシマリ三ハシマリのりし
鏡ハシマリ乃ハシマリま^{ハシマリ}新武^{ハシマリ}よ^{ハシマリ}鏡ハシマリりも
鏡ハシマリ乃ハシマリ人ヒト角ハシマリ也ハシマリ也ハシマリ

と射をもよのくやうの
弓矢をもあらどまひゆき
た今もさきもるとあくと
射までわしきくぬ歌のま
さくねをありるるのや称
ひくみ今一の外せすさりと
弓箭只と二弓もされと
弓矢よりよへわと鳴る離よへ
面を鳴るのを連アニ二
弓も離よへりとも離
よへれをうつくことありと
里山通あ活乃まの類の向
一面よありとも不鳴うら
さくわ連よ四離よハ面うん
あみえはとあり因あけと
まつとめの弓よハせらむ

連よヘニ弓離よへわをうへく
三あるもらん射アマツこの
類もさく離よありとも
ニ弓もさく離よ面をうへく
四あるも離よ面をうへく
あらトのうにてさく離よ
離のあらぬ人をせぬを
離よも一離よニ弓もかと
まつよまんくもと不鳴
射場ちくめふ弓場發
ヘ矢のが活あらくうと
弓箭をも防もしげ射場始
さけまとまく乃賭弓也
一賭うる年ハ弓槍
乃お撰もとつづく

卷之三

卷之三

まほはるかよはるの街
じまぐれにほはるはるく
ちほの郷正義とこそと
新武郷よほれと一そと
波止波下は眼波移る
度よ遠くもこらぬと
はるのほとほなまをと
野毛ニ拂よ三毛と
トトヒキをもてて秀次
船の乃付わく脚す
ちこまえとひのえと
乃ちあくは山よほへく

もねよすすみりん山
野毛のとくわねよあゆ
とも極めよおれとゆくと
又船野よもとのまくくくね
不取し船壁とけハ多もあ
もよ極めよおれ場よまね
のうくのえくくつむくと
まのえくとくたとくをつぐと
連のうくひくねよあく
くわくくふまくとすいねよ
ひきくくとくせうねよまく
き

野乃文 極めよおれときく
野ノ原 おれとく

あきらかに原よりさう原行
原石原川原ものとすら
文字とよあるへ野原より
かか石塙りの原の原も
火乃原行要の原禁乃原
もお乃原と野原よ加石
塙の右の塙原を多石塙
多く原よ野と二句もと
言ふ野もおよへども
欲しき者あよあくさく野
うとも絶者のいぬよき
るよおよ野と二句もと
ちりひき

野原よとむら 脊よとむよ

二句もあり

わとうへとまく武藏野の

原も邊野うこやもわとう
くくニをもと野原よとむと
ああ

野小の 三句も野原

中略の頃と一章よ

一石も々々野もととは
わとうへ野のみ原乃は
野原ももと野原よとむと
日一塙やうしのととのと
と野もなうとあうり
ゆ

野毛を たとせ庵をせ生
ねとくとくとくとくとくと
もと庵もせとくとくとくと
うち庵のよと不塙狭と

りあまふらせきのとえすと
ア面と鳴べーせもだれぞ
リノ田舎よりれぞる野四よ
ハ不編狹衣狹道アヘニ
届く事

野山成尾く 美之鶴羽よ
サ銀と鳴く おとし鶴羽よ
野山の事あう 二句

野ふ田と外身 稲合アカ
わノ林と山合ぬ
とく絃也と鳴ひゆい
もふと鶴也と鳴ひゆい
田とさきねじ田よ城へて地を
八方田よりうされ田よ野
筋骨ぬねう付合よとめと

原山アヌテトモ今ひ
申とあんとけよ田よりう
かくあうてよ野すあ里
野すよ新田とひくと
あらんとあはよ野田と
山と山と山のよあくされ
あるよそりく付合と
道理をもくとす名とと
あらんとひくとすと
じうと付合とすと
くうよ思底とあらかき
まととまつと付合

野すよ林と八月よ岐大角
うち暴風とももも
かよ野乃字ふの字よ二万

あと阿敷と村の阿敷うらり
あ

野乃宮 阿敷よりかく
朴祇ハシタニし名ふしひきふく
もわうりよ一座よ一句し
歌くまの別格ハシタニし沙板サバンも
歌と歌人野事ヤシタニ山野野
野ヤシタニ野康野事ヤシタニ野野野
火壁水カツキスもあち野の家ヤシタニ
越奈乃ヤシタニと野ヤシタニ巻ヤシタニハ同
しもすく約乃石ヤシタニと
野乃むヤシタニとけまヤシタニと
とくらヤシタニかす野ヤシタニ野
田ヤシタニ野ヤシタニ野ヤシタニと

くいやヤシタニ赤あくらみヤシタニと
よき鳥ヤシタニとえふもあまヤシタニ野
人ヤシタニと同ヤシタニく野ヤシタニのまよ三
白ヤシタニ鳥ヤシタニ

野ヤシタニ二野鶴ヤシタニとひくと一襷
野ヤシタニよれ鶴ヤシタニと二もあくわ
とくくわのまよと三ヤシタニと
一野乃野素鶴ヤシタニの野軒ヤシタニ
数よ煙よい三ヤシタニの門ヤシタニと
充ヤシタニと云詞ヤシタニわいもひを
さきヤシタニと車ヤシタニと車ヤシタニと
の車ヤシタニと車ヤシタニと車ヤシタニと
歌とし野ヤシタニと車ヤシタニの声
同ヤシタニと車ヤシタニと車ヤシタニと
車ヤシタニと車ヤシタニと車ヤシタニと

ゆく初物を市中へわざ
と取て匂のゆく

と
の
う
る
い
ふ
る
水
鳥

はよあと海とかう
くわ乃萬蒲端午
よぬまろ萬蒲とうり植根
水毛と野ひのいのいの根
と毛毛の根よけり劍山去
いのいの根よえの根毛行
ひのいの根よえの根毛行

野のそひ、まことにあく
徳よ堅かく教よひて
今一わざうへまきまく
養ふむじゆくくへび
いとく次に野よせ
わゆれりまくへきく
今くわくのや初限乃

あくの内をすまむ程よあく
見てにをい乃の文字をわ
のそり = うけ三句爐をもる
毛宗 = も同二句爐
言 = きもと二句爐
内 = うちあくの二句爐
毛宗 = きよ二句爐
毛宗 = かくの二句爐
毛宗 = かくの二句爐
毛宗 = かくの二句爐
毛宗 = かくの二句爐
毛宗 = かくの二句爐

車より立て三歩
も余り遅よへうるのと
しきゆくゆくゆくゆくゆく
よひゆくゆくゆくゆくゆく

彌留者 病

病氣
乃氣也。身氣也。氣也。
死氣也。病氣也。病也。
宿氣也。宿也。宿也。
宿氣也。宿也。宿也。
宿氣也。宿也。宿也。
宿氣也。宿也。宿也。

病

病
只一病也。病也。一病
よひかよらうと教
よよみてよよこむも
よよくもよよくもよよ
よよくもよよくもよよ

十日十日人をう
せぬや。但も乃掌も未
不也。門もよ掌もよも
よもよも。山も乃掌も
あき人も掌も人もす
もよ。お連よ面と顔の能
うそく
きよ。お絆よもよも
りすすめよよよ
連懷よもよもよも
老すすめよよよ
すすめよよよ

ス匂うれも拂よハニタうち
也たまへてくをにあく
ウミ歌乃富とおあをゆと
らひく後の波を富のむ
と歌ふハメ匂もとをも初
よおせらうれ不審もわ後の
うけとうけりくと匂神よも
てものすれすすれをあみの
わゆくもえよきくらぬ
あ人々と波をいきの身乃
あし歌乃聲の白きもとを
もとも那よおせらうれと
きふき人を身のと乃も
乃多よぬめりとあるまを
のむよへ後ろ神、翁くま
くちくくす又後にじ

不毛の不毛の身みるとの
き乃まよハ白聲歌乃富
とセウとも鳴へてすニ有
鳴へをねりテ聲よ傳くも
き人を波すと小ハ続リ
し所と向くセウ去るり
も檜^ヒキ木の本の連宿には
さかむのまアハヤ逃と
御ももくもくアヤ逃と
すとく匂神よもくもく
むよ。齡ニ匂神と形式ア
モ。匂神よもくもく變へ
くすとあらへんち呼ぶな
れぬもおも縁乃歌のす
から逃よハ人をもももも

乃とよ一望と三こむ人を
おもひ今ふき乃門よ取らし
不も門もす縦よとくに横
うるさかる二乃かよ
まつりそれもれどへゆ
え

翁よ老 二のちじ小走よ
翁或りあらへんか不審
と防組しもばチ越と燐
乃不よあせらア組と燐
物ともよほくあらく組せ
主もあわらぬ二の去と
まとわせと燐と云と同
モのうる翁前あらとと

かうのもじも某もの事
よも二のき毛の不審より
燐やくわく理窟とさせ
事あくわくわくの連のくい
くもむの事あくと不審
よもす約乃翁若うる
翁速懐よあす

翁よ不守符二のち
の二行のよある符くもく
あくと人倫も速懐うり
翁と計ふと計ハ速懐よ
おもひよとくもとのとく

中よ多くもあらうにと今
ト乃のりよふくありもせず
鷦^{セイ}翁^{マサニ}乃^シ塵^{スミ}歎^{タク}ふ御^ミち^ミ神^ミ
翁^ミち^ミ被^カみくふりよせられ
一とこゆと拂^ハ拂^ハト^ハれとえ
あり三^ミるをとへ^ハ因^ム連^ツ被^ハ
思^フるよ^ウのふくありの
下のりと百^ハ約^{アハ}ふ拂^ハ拂^ハト^ハ
はるあや^ハ思^フ下のりれ
ふと拂^ハみふりよ^ウと宣^ハ
あう春^ハあく^ハ下のりと宣^ハ
よみと^ハしまはわ歎^{タク}の下
わる取^ハく^ハるとも^ハるよ
しりある^ハと^ハる^ハと^ハる人^ハ
せぬも^ハと^ハる^ハと^ハる^ハた
はる^ハよ^ウ翁^ミ翁^ミ乃^シふり

一りせく^ハ拂^ハト^ハと^ハり乃^ハ
拂^ハうり^ハ名^ハむらう^ハよ^ウま
もし^ハ人^ハあ^ハと^ハ百^ハ歎^{タク}下^ハ
き^ハ人^ハあ^ハと^ハ三^ハ拂^ハ拂^ハ
き^ハ三^ハ拂^ハ拂^ハり

面^ハ歎^{タク}只^ハ一^ハ月^ハ元^ハと^ハふ^ハ
面^ハ歎^{タク}二^ハ面^ハ歎^{タク}拂^ハ拂^ハ
拂^ハ乃^ハお^ハり^ハと^ハ取^ハく^ハ今^ハ二^ハ
白^ハある^ハと^ハ一^ハ面^ハ歎^{タク}歎^{タク}
字^ハ歎^{タク}字^ハ面^ハの字^ハ歎^{タク}一^ハ去^ハ
き^ハり拂^ハ乃^ハ字^ハ引^ハよ^ウお^ハ
拂^ハ葉^ハ一^ハね^ハ翁^ミ葉^ハ一^ハ拂^ハり^ハ
き^ハ翁^ミ葉^ハ一^ハね^ハ翁^ミ葉^ハ一^ハ拂^ハり^ハ
き^ハ翁^ミ葉^ハ一^ハね^ハ翁^ミ葉^ハ一^ハ拂^ハり^ハ

葉とりとねよ付くらる
匂純うるを雜ぐるゝ一徑
木乃葉木物木乃葉様木
乃葉衣皆多も多も多も多も多
きと物と柳相柳相柳ち
ち柳を皆初秋よ一葉時
ちりぬよ色あはまの名と
さき移れ只一葉ちらるといひ
ぬ株う取もス松竹の爲
葉も雜じて木の唐
葉いをもス萬葉あはき鹽
木のちもねり葉乃萬葉
ハ物と煙とあれど拂トハ
而とて庵義あら何乃木
乃萬葉のちも空乃門あれ
わと萬葉ス花也からむ
落葉の宮ち女三才の御
されを人海よも不薦をよ
あく汝煙相ふあくすとく
とも四乃門取

秋初或よ一庭ニテの御
秋あるの宮め里うるあ
うるまはる寛よ拂煙の法
がと合意のまやもんやう
よへへ秋一地乃至まよ
往來の後秋一ひかにてとき
光と秋よ拂くと一月に

秋乃まひの御事もれをうの
さりと秋乃続系秋乃下崩
秋のあ葉がまわるわあうる
もれをうのいふと云種
とまよえのまうへとねし
ほ導の後秋ちせんにまみ
されと難うり種の字のえの
まうへとねの向取の
秋乃外よくあうのと
黒地うれどと又秋と風神よ
てうれしに秋のとあると
とまよえの風神二と秋の
下崩秋乃続系秋の相素
みとふき風を前くもした
なうあとへねとあと

風ありまは風神よ海うらう
うふううう海秋事よ面を
きうぬとあまくしてて正ま
ううまうまうまうまうま
拂よも面を拂へきうりと
秋時と人名まよゑと
難と極端よめく汝まよと
人拂ふわく汝まく汝秋
乃風

おもひよ 大お銀と拂と
おもひよおもひよおもひよ
うもあお拂と拂と拂と
も拂乃まも拂と拂と拂と
拂と拂と拂と拂と拂と
おもひよおもひよおもひよ

卷之三

萬物皆有裂縫
那是在教我們
接受和改變

逃入八百里草甸子
今一

之爲體者乃體之用也
極乎二向之體者

家へ謝るをもとめ
人情よわす

思ふ事も
わが心とまじる
空ひを乃へる

二句も一短よ二句のねり
拂ひ三句も下りき

五
三
一
七
四
六
二
八

思乃の字は連よりあく
句もとて去るかと

おもひと
うりやうの三宮
聖よ。山と海へ那よへてや
しまふ。八三宮をめぐる

ても御身と御子の
御文書を御持つてお

わのりわく
ひうち二句

卷之三

三
二
一
ひのくわいりあつれ
さき

モルガヌウ
レバ種子
タマリヌ

おもてまほとゆ程とうけ
ともさゆ程あらそりの祠と
かく居るよもあくはた
まおす。ふおりります御
座わらの祠をとむる
程乃まいじきものあれ
二あ計あくと御
されとゆの家とへと如び
おまくと御
とあ馬く程龍車程おの
人をもう御る程を程
とあくとゆあらへ
と居るの程乃かよ高貴
乃紙乃程源程又金箱の
程金乃ほやの程又人
乃あれ度の度あらの門

程乃字一あるべし又程程
主乃房程以の傍四度の度
おも門よ度乃ま一もくへ
ほきしれどもととく
教よもし程ちをありと耳
程の坐のかの度乃まも
おまくとゆるとよへ封くも
くもかくと汝が御程程
とくと御乃く壁山かくと御
も程のゆきあとくと
村可壁と段うく可儀る
御度程も程程まもとた
居るよあく

第一 庫よゆ法うけとニウ
ナウリとつへと御ノハ

わをうへあとくへくへくへ
一ねひかよ鰐の風景
もの人ふ獨よまくもる箱
ふたいと致ひよ徳丸と第三
内かよ二もあるへ一され
面もきゆへき段常へはすモ
安樂りあすとえぬとゆい
ぬと常あぬと云洞に又ま
むと別よくゆうありヌサの
因一面を下場跡ひある
とり洞もわい地をつゝニ
白耳毛

四
男
只一獨聞あとのひく一朝
那の聲一庭二匁の船と次
離りゆうんと致ひよ徳丸

とあらぐり男山より三
匁の肉と又うれおます
ぬそれおの顎やとひく三
うそ一匁よハ面と鳴せ
まくとよあます離りゆ
せり可まじうれお離りゆ
面と鳴せおもと男松男猪
小男康乃歎情お三乃門と
れとおとおれとおもとおりゆ
おもとおれとおとおとおりゆ
鳥乃柳もみま割れれ
おもとおれとおとおとおと
おとおとおれとおとおとお
おとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおと
世誰ともよやうよ致ひよ徳丸
と生類よも不羈わ乃室

卷之四

تَعْلِمُونَ مَا لَمْ تَرَوْنَ

もあらわん
他物

今一もあらまへ

おひへ
尾と連よをふとまへ
あまきと連へ三句と
今よめあつてゆゑの家を
抱えれと連の二句ある
今名ふ乃尾とも一わらふ

尾上よ
男の身も女の方も上
の字の小二句の事
を言ふわら事理の向う事
を思ひてゐるやう

大井川 ウヤモニ橋
ミツメ細巴乃木舟
際の井よわせ川不繩
おやわせかよわせ川わ乃子
乃子よくいづみ

奥山オヤマ 一座よ一山乃向アシタカ
又可アリ多瀬タツセよハ奥山オヤマモ
而と人ヒト々ヒトヒトニあとアフタキテ而アリ
那ナ乃ノ又アリ字シル乃ノ又アリ字シル同ドウ
ノノ字シル小コトハ也マサニとトシテ
奥オヤマとト之ヒ空スカイれよレヨ所シテもモり
ひかヒカ乃ノわくワクひ類ヒノミツ深シカク
浪ハラスるル紅カトリ大網オオシメとトてテ萬物モンブツ
之ヒ佛ボクよハ奥オヤマとト之ヒ國クニ其ヒ故シテ今イマ裏アヒ

ましの乃奥を奥に乃奥
を言乃絶きあはせと湾乃
奥も里門に向すもあす
うちのあくとされどこのか
裏ノ里とくらむやなら
乃あくわくとくらむ

おもひよ 尾乃字花乃字
おも鷦ニウ乃ねうれ往く
のとくきくいあこ他尾ト
不薦とくの絶うりび尾下
空ききの絶うりび尾下
不薦とくの空きの假器
けうひよおもひの下にまきせ
小花葉花尾花尾花尾花

移の文字を行ふと
てうす取るもひある
乃秘事うれを宣ふよトヒ
人のあよ小男康のう
野乃薦の色花とあそ
ち乃人薦の色花とあそ
て薦と尾花と二物とた
えひくあくよ文字を行
玉ゆわニ物よハアハ薦の
事と薦あ薦とカクヒ
ゆうかよみうき極のみ
いじうき花といじう
妹うき林よせんと接す
くと薦乃種の歎乃尾の
かうよおうあか尾花とく

身の内をもててはいへぬ
身の内をもててはいへぬ
身の内をもててはいへぬ
身の内をもててはいへぬ
身の内をもててはいへぬ

形にて因 極和よ二句可也
極和よみか極へ一之三
言と神とまことと徳と
事とわて田へ因也よ
経の相と心のやう神と
きのいを」と多
主文よが乃和よあ
りをあくとひ又端既に高

卷之三
十一月五日

やの
月と年
月

卷之三

海連よ一匁もわ湘子も
然乃は然のり徳もさ
の觀よ今一匁も御能時
然若然并の徳也と然相
然然舊るよ然乃は
わをまくへあ
然二
乃亦よ高木ノ
因云

日向の事連
乃の二種の句ある
ひ鶴の句の二句のか高も

あらわす小室の跡ハめの
多喜の連も庵もひまつと
もふりかよはれ庵とあると
翁小國と佛もせ信乃と
と清風とちるふともに紅
葉の連よくわざれわくら
ひきと佛清いり往よ
くまの物しさあよる
みれを二もとまきよ不貞又二
色の里をもとし一句乃萬下
ニもとめ二句の物をも
計一席よんのうへ庵
大加賀令とさ

車 一駕乃車一水車一葦一

三もの門一わら二个水

車へり金乃車一トモヤ新或よ

自笑の事とくまあらハ連

歎よまれなあらねども我

やわ御とて室をせすとま

義よひあく子連よ三もの

地逃よきうきれく離

水車とくとくとくとくとく

鈎骨車 滅車のか車

寫乃車 驚車^驚羊廻牛車

轆の太向牛車 四累火車

石車 小石乃車 い草車

小車 そとみひ草車

小車 そとみひ草車

系緋乃車 山洋^洋さりの車

第一車 関車

舟車

墨雲くろくも 只一月後ひとよ

又一月後ひとよ 那

の家いえ乃お打早たば人じん志日しにちと
とのくもくも今いま トト

墨雲くろくも 碧雲へきくも 墓雲はぐくも 花はなの

變かわよよ しよしよ はははは くもくも

一いち ああ く

雲くも とと 雲くも 滯たま うんと 留る う

待まつ くもくも 圓えん もも 月つき

二ふた ああ くく 留る うう 二ふた

雲くも とと 雲くも 大おほ 月つき ひひ ときとき わわ

二ふた ああ くく 待まつ うう 二ふた

雲くも とと 人ひと 久く とと 人ひと 乃お

中なか のの とと 人ひと 人ひと 伸の 伸の

外ほか とと 人ひと 伸の 伸の

車くるま とと 人ひと 伸の 伸の

も極稀ヨリ多めに三、四人
徧一いあくはまうり一草
とうらと連より二あわ離よ
ひかよ牧童葡萄とれ
すへ事と一そそぐるを
牧童の事則乃は多モ半
銅馬の事とれもあま
ま紀もあよしも則
よ面と塗ノ一筆代ると
えよヘニラ計場へおうり
とくせうも事則乃唐也
まうわるい代うわをも
今刈の字と連よ後也
ノ紫芳主麿高昌浦
徧と刈ねとくへくわ
一筆も人未次あうりと
あをきくトも多岐刈と
刈内門とく
草乃席とくやるとのり
ゆす草の席もくく草
乃アヌ草をぬさた連よ寺
殿よハ草のアヌ草ふた草
今一そそぐ一あくも草
乃高ち草あんたおうり
よ今一そそぐ一草もあく
もくく草のつりりあくは
ちの物とくへーも乃高
草のアヌ草やーも家こ
連宿もあく次草のまよ

二句もこの元のものすれ高麗本
さわ極鶴よ二のうりりりわ
らくぬかよとすまほ乃りりりま
乃りりよとくにわと鶴よとまう
まほれ鶴よ因あまと鶴と
もう鶴も極鶴よあくへく
よどれを極鶴小加しとれま
るすれ人鶴よ二のうりりもと
云ひきく乃もと

弟の送 極鶴とあとそれ
遠きの送遠は因一

弟乃家

野よきくも

弟の送 鳩と連よ二句

鶴りりあよほ

毛ハ野鶴乃す。兄弟の事
いすく野ハ鶴又野
鶴るくわうと鶴。二のうの
因に鶴よあれ。毛ハ野鶴又
久とす。まみ乃鶴よも鶴の
鶴よも育てく。鶴乃鶴毛
乃ち別とべ

弟の送と云ふ。新鶴高女
様小車。新様つまう。あん
夫萬。おけく。次因。まく
萬と雅。まく。

弟の送。野鶴の子種。と絆
も浮し。多喜。まく。れい。有

ゆきをたむ葉あらみ程よハゆ
ミ二勺ゆくと云後わへ、種
乃家とノケモタモもあれい
ヨリえりそちらのらひきチ程
トク行な難め家乃もくく
ヨハニウゆ

若木村 葦乃家別よわる
若木村 ヨリ家の家ノ二勺も村
乃家ノモニ勺もか

若木癡若木家 挑ねうへ
乃家ヨハニウキと面家ヨモ
甲乙ノシキモジカニモ
トモキナレモ不痴
若木双子はまく家モホ
若木双子はまくわ

若乃家ノ二勺家モニ二勺
乃家若木極也ヨアリ次第
の字ノリハニ勺もく文字の
青草のり極也ヨアリ次第
ヨハニウ文内若木葉圓の痛
内歯ノリモハ歯乃もく
トモキナレモ不痴
エ乃大トモ極也モニ二勺
ヨハニウ家乃家モニ二勺
モノノトモ極也ヨアリ
シモノノトモ極也ノ二勺
系乃家ノ二勺不痴也
家モニ家小不痴ニモニ二勺
ヨハニウ家乃家ノ二勺

独りよ二句よ乃よ二句
さりゆゑよばえくきとより
時ち極わうり絶たまよ
わするよ三句をかはせ
くもよ書 二句をくわ
不薦墨もけのとぬやま
二句をせりいもくをうみの
くもよへ依りゆて薦初
乃くもよへ依りゆて薦初
くもよへ居と不守ゆ
あ乃門くもよへ居と不守
くもよへ居と不守ゆ
雲くもよへ居と不守
くもよへ居と不守
あ乃門くもよへ居と不守
くもよへ居と不守

鳥鶴 あゆ ちわえり
あひ あひ し連 ひへ 一
抱されと拂よハ二句を一个
のあもゆりと二句を平置し
鳥 ま教よあひゆもき抱
の教 二句を一个拂よ
も鳥ニモ外れと人馬の鳥
みうへ く角のこと打ち
風うのよとも白も鳥ニカム
田 こちの鳥冠も圓あらの
皆さうまことんち端也あ
そんふの足うて用よと
あねち付るをもふよ
櫓械 とく圓きよ附
橋木 とく白よ抱と付く
木入仙ひりあ不正用

新武めひ毛ひ方よどきうり
ろねじ橋木の抱耳よ
えす本抱と公包よ森
と付きもあ包も本抱
名前乃本抱乃森うり
あく入るるうりぬ包も
ひ引立くもあくも引立
すり紙もさむひるひう
とハ鶴あく義理の爲
被うらうらよ付うもあれ
う漏 へりうよ附うう
三弓めい橋後 うの刺友う
堰沿の刺友うのうよ付う
あくう袖と連拂た小さき

御坐うるゝ人の人無文
ひ居つゝやうとあやうらるを
もひ通乃半一をもすもし

圓の名とよひ名丁彌

よハ二句を

圓の名とよひ丁彌打拂
拂も圓あふのゆと魚をつ
けくへくもかくすか拂
とへ拂るむニ句去の拂も
付もすきく拂く拂を二句を二句
えもきり拂く拂くへくも
二句去るく拂く拂くへくも
くも拂拂を拂拂と拂と
がく圓を拂乃はよ圓を

おも付すわいと欲言云
付くもくつかくす家云
ふのふと二句をふ
名ふとへ拂拂と拂と
へ拂よ圓とくの二句を
拂よハ二句をと拂くもと
まく二句をと拂くもと
も前も拂よ拂拂と拂と
さすれ拂のえひをも
まくうち拂よ拂拂めある
風拂拂を拂よ圓とよく
と拂拂も拂ニ句を

圓の海名を拂拂よく
へりせのうと伊豆の海名
乃はよくまへりるふす

まちこみのあつともぬほす
えひきく事しし拂うち
二句歌詞

くれ行わくと 桜ねと題

白井とみえりし
手手手三

櫻^シ拂^ハニ^カと^ミ馬^シ橋^ヒ
精^カよ^ア人^ヘ

書^シ二句^シを^クタ^スの^シよ^ハ
二句^シを^ク組^ハの^シよ^ハも
乃^ハる年^の書^シ人^シ拂^ハふ^ヨ
二句^シを^クあ^ハよ^リと^モ二句
去^ハるわ^カゆ^ハ事^ハも^角解^ハ
し事^ハト^ア人^ハ

く^シき^シと^シわ^フく^ハ
く^シき^シと^シわ^フく^ハ

書^シ二句^シを^クも^れの^シよ^ハ
あ^ハく^シ不^可前^シく^シよ^ハ
里^シく^シさ^シ通^ハく^シよ^ハも
も^ハ真^ツ達^ハ乃^シと^シ逃^ハう^シ
く^シき^シよ^ハ腰^シ胸^シ腰^シ腰^シも
生^シ氣^シも^長乃^シ富^シと^シは^シ
冥^シ達^シと^シる^シの^シよ^シみ^シと^シ
か^シ人^シこ^シく^シき^シと^シ胸^シも^ハ
誠^シ乃^シ事^シよ^ハ成^シ通^ハえ^シ
一^シた^シく^シ一^シた^シく^シれ^シ
書^シよ^ハめ^シと^シづ^シを^シき^シ
とも^シる^シの^シよ^シる^シと^シ
も^ハ言^シ乃^シ経^シき^シか^シと思^シ
それ^シく^シ思^シあ^シる^シ思^シあ^シる^シ
も^ハ經^シ乃^シ財^シよ^ハ不^可是^シ

タケトコニ二句通るト書
乃まよハ因まよト想あ
スミ句丁生もこぞれくろす
すとまもかくねどれとも
只書のみよの取扱い
くくへくもとくとく
もとさむとも阿内居り
えあらじタケトコニアリ
すとまもタケトコニアリ
加奈子くくく、お割也
タケトコニアリ
タケトコニアリ
タケトコニアリ
タケトコニアリ
タケトコニアリ

タケトコニアリ

蝶一蝶蝶と蝶と一
止ニあるト蝶鮒蝶
もひ角し入蝶とくとく
あともうわもこの門版に
立すよ あくさくのま
下知宣下みとみ句ハラ
すもそれともよハ二句通
金井千ち
灌佛 三月八日シ松源寺の
トモ フヌアラホムル
梶乃花多シ梶深ハ衣敷
乃も 乃も雞梶と

そもも難と葉根の向
あ

雲乃風也 あした月照月の
うよみうきのやう
かざりうどりて山難より
ある

くのきやからくわらやま

法船もむ

精葉ねむり

